

1 はじめに

高浜市立南中学校では、朝の帯時間を使って、全校で読書活動を行っている。休み時間や給食の後に読書を楽しんでいる生徒も多く、学級文庫にある本が話題に上がっていることもよくある。また、読書に関するアンケートを行った際に「読書をするのが好きか」という問いに対し、およそ9割の生徒が、「好き」もしくは「まあ好き」と答えた。しかし、朝の読書活動や休み時間、図書室での貸出記録を調べてみると、ライトノベルやメディアミックスによりノベライズされた作品を読んでいる生徒が多い。さらに、期間を空けた後に次はどのような本を読んでいるのか調べてみると、実に半数以上の生徒が同じ傾向の本を読み続けていることが分かった。

そこで、生徒たちが、より多くのジャンルの本に触れ、様々な本に興味をもてるようになることを願って本実践を行った。

2 地域の図書館司書と連携をして

実践を行うにあたり、高浜市立図書館の司書に本実践での教材に用いる「大人になれなかった弟たちに……」で描かれている時代に関わる作品について「戦争」をテーマにブックトークをしていただいた。朝の読書活動の時間を用いたため、短い時間での実践ではあったが、「へえ、そうなんだ。」と納得する表情を見せたり、「あの本、図書館にあるのかな。」とつぶやいていたり、と真剣に話を聞いていた。そこには学習する教材と作品の時代背景について興味をもつ生徒の姿が見られた。



3 作品の魅力を感じ取れるようになるために



本を読んだときに作品の魅力はどこにあるのか、何を描こうとした作品であるのか感じ取れるようになることをねらって、本教材の読み取りを行った。叙述を基にした登場人物の心情の読み取りを行う中で、作中で印象的な「母の顔が美しかった」という部分に着目し、なぜ母の顔が『僕』にとって美しく見えたのか考えていった。また、生徒がなぜそう見えたのか考える際に、原作の絵本から母の挿絵を拡大提示した。美しかったと感じた場面での挿絵と他の場面での母の顔の描かれ方の違いから、挿絵も本の内容や魅力を読み取っていくための大切な手がかりになることに気付けるようにした。

4 読んだ本の魅力を紹介してみよう

読んだ本を紹介する活動として、様々な紹介のしかたがあるが、今回は「カスタマーレビュー」という様式を用いた。今回取り上げた理由は、近年生徒が生活の中で急速に目にするものが多くなっている媒体の一つであることと、本の帯やポップなどのようにレイアウトを気にする余地が少ないため、書く内容に集中できることである。生徒は、例示した通信販売サイトのカスタマーレビューを見た際に「参考にする。」「書いたことあるよ。」などと話し、意欲をもって、自分が図書室から探して読んだ本についてのカスタマーレビューを作成していた。自分が面白いと思ったことを他の人にも感じてもらおうと、ある生徒は、「大人になれなかった弟たちに……」のカスタマーレビューの題名として『僕』の母は美しく見えた、僕の母は…」とジョークも交えながら書いた。

